

# 誰一人取り残さないための学力向上アクションプラン

令和5年 5月8日

江戸川区立船堀小学校

令和8年度までの目標	国語		算数	
	自校AB層の割合	75% (令和4年度75%)	自校AB層の割合	65% (令和4年度59%)

目標達成に向けた取組			
3つの観点	教員の指導力向上	基礎学力の保障	学習習慣の確立
学校全体の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高学年の理科と社会科で教科担任制を実施する。</li> <li>・若手教員校内授業研究を継続して行う。</li> <li>・自ら課題を見だし見方・考え方を働かせて学ぶ「学習過程」を基本とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟度に応じた算数科の指導を行う。</li> <li>・ミライシードを活用し、各教科の基礎、基本の定着を図る。</li> <li>・東京ベーシックドリルの診断テストを年3回実施し、結果を分析して指導に生かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人1台端末を使って、日常的にミライシードを積極的に活用する。その際、えどタブルール等を周知・徹底する。</li> <li>・船堀小学校学習スタンダードの定着を徹底し、集中して学習に取り組めるようにする。</li> <li>・「江戸川っ子study week」を年間3回実施する。</li> </ul>
特に支援が必要な児童・生徒への手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学び（個別最適・協働的）をすすめるための視覚優位の「ICTの活用」を行う。</li> <li>・特別支援学級との全教員の1日研修を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京ベーシックドリルの診断テストのCD層へのサポートを放課後補習事業者と連携して実施する。</li> <li>・ミライシードで苦手分野の復習を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CD層へのアプローチとして、放課後補習教室と家庭学習の連携を行う。</li> <li>・ミライシードで苦手分野の復習を実施する。</li> </ul>
成果指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力調査「授業の内容はよく分かりますか」肯定的な回答どの教科も85%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京ベーシックドリルの診断テストCD層（7割以下）の割合（R5・4月CD層%） 低学年10%以下（R5.4月 8%） 中学年15%以下（R5.4月16%） 高学年35%以下（R5.4月44%）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力調査「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」肯定的な回答80%以上（R4 71%）</li> </ul>